10.　外構計画

（1）舗装計画

・ちくじょうプロムナード、建物廻り、駐車場の歩道はブロック平板を採用します。歩行性を向上させるため透水性のある平板を採用します。路盤を丁寧に施工し、不陸のない舗装を目指します。

・ちくじょうプロムナード、建物廻りはイベント時や災害時の緊急車両の乗入れを考慮して車道用の耐荷重とします。

・その他舗装はアスファルト舗装（プロムナード部はカラーアスファルト舗装）を採用し、極力メンテナンスがかからない舗装とします。

（2）囲障計画

・道路境界はフェンスのない開かれた空間とします。北側・西側の隣地境界線には転落防止のためフェンスを設置します。公用車車庫の後部に入れないように、建物手前でフェンスを折り返して設置します。

・国道側の車両出入口は 24 時間開放とします。県道側の車両出入口は曜日や時間帯によって車両の制限をするため、車止めポールを設置します。

・イベント時等で駐車場の使い分けができるようにチェーン付き車止めポールを設置します。

（3）植栽計画

・ちくじょうプロムナードには低木と常緑樹を設け、並木道を演出します。県道側は芝や低木等を設け、圧迫感のないオープンな空間とします。

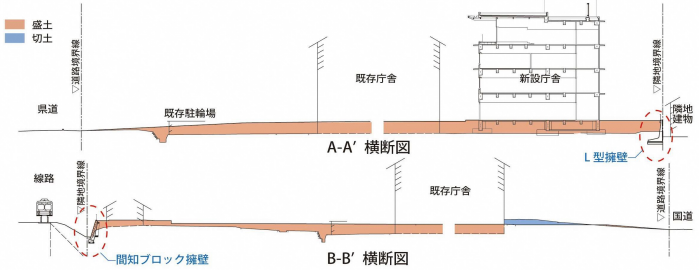
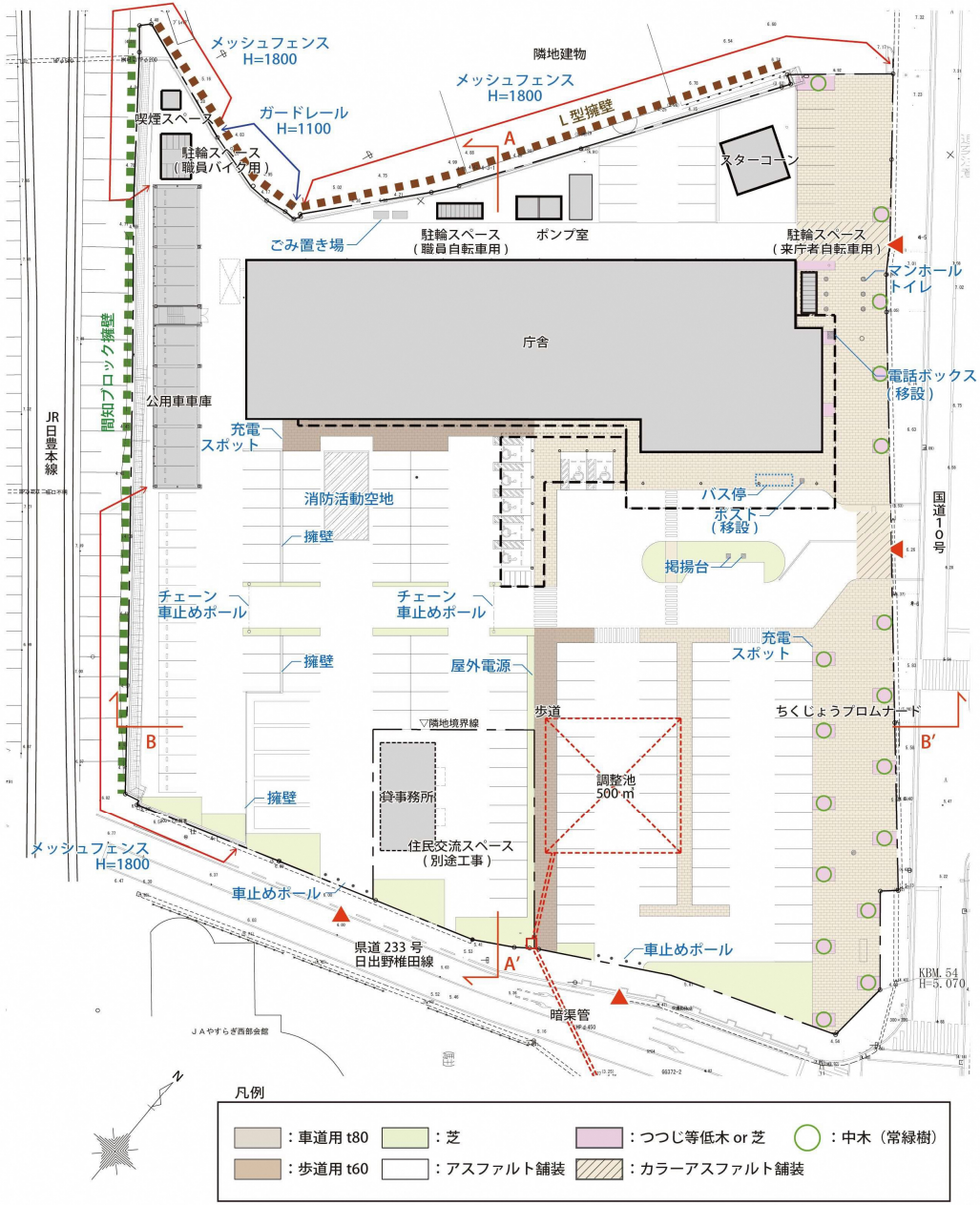
・既存樹木は造成レベルの関係上、全て撤去します。

（4）造成・排水計画

・新庁舎の廻りは盛土を行い、バリアフリー性を向上させるとともに、窪地をなくすことで敷地に雨水がたまらない勾配計画とします。

・排水最終桝に接続している暗渠管（県道）に土砂等が堆積しており、排水に支障をきたしているため、着工時に浚渫工事を行います。

・暗渠管（県道）の口径が小さく、そのまま使用すると敷地内の雨水があふれ出すことが予想されます。敷地内に開発許可技術基準を満たすよう調整池 500 ㎥を埋設することで、暗渠管に流れる雨水を抑制し、浸水を防ぎます。

・北側の 3m 程度のレベル差は既製品 L 型擁壁を使用することで、作業性を向上させます。

・JR 側に生じるレベル差は公用車車庫との建物基礎等の取り合いにより、間知ブロック擁壁を採用します。